

基本目標	取り組みの方向	具体的な取り組み	内容	関係部署	実施主体	事業概要	成果	課題	目標とする指標・内容	実績
2 あらゆる住民の地域福祉活動への参加の促進	ア ボランティア・市民活動の推進	① 地域に根ざしたボランティア等の人材の掘り起こし	地域社会を支える担い手として地域ボランティア等の役割は重要です。今後、社会福祉協議会等と連携し、学区ごとに専門性を持った人材の発掘や定年退職をされた高齢者等を募集し登録を行うなど、地域課題に応じてボランティアを派遣する体制を構築します。	社会福祉協議会	行政・社協	○ボランティアに関する情報収集ならびに情報発信を強化する。 ○コーディネーターが各種研修会等へ参加し、ボランティアコーディネート機能の強化を図る。 ○定年退職者等を対象としたボランティア養成講座を開催し、人材を発掘するとともに、組織化や活動の場づくりなどをすすめる、地域課題に応じたボランティアコーディネートができる仕組みづくりをすすめる。 ○より幅広く住民へボランティア活動の紹介や活動啓発をすることを目的としてボランティアまつりを開催する。 ○栗東市いきいき活動ポイント制度の受託。 ○傾聴ボランティア講座開催 講師 特定非営利活動法人おうち犯罪被害者支援センター理事・支援局長 松村裕美氏（H29.3.14実施予定）	・社協広報誌「栗東ふくし」やホームページを活用し、ボランティアに関する情報を発信することができた。 ・栗東ふぁざーず倶楽部活動支援 ・ボランティアなごやかまつり実施（H28.10.8 470名参加）。 ・栗東市いきいき活動ポイント制度の実施により、168名（H29.1未現在）が登録。 地域福祉の重要性、ボランティア活動について周知した。	・若い世代のボランティア人材が少ないため、学校や企業に向けて啓発や情報発信をおこなっていく必要がある。 ・介護保険改正に伴う、地域住民相互の助け合い活動を見据えたボランティアの養成講座等を開催していく必要がある。	ボランティア活動の啓発・ボランティアの育成	
		② 地域に根ざした地域ボランティアの育成・支援・連携	地域における相互扶助を支えるのは市民一人ひとりの活動です。人を思いやる心を基本とし、誰もが生きがいをもって地域活動に参加できるように、ボランティアの育成・支援を行います。また、社会福祉協議会やボランティア連絡会との連携を強化し、地域課題の解決に取り組みます。	社会福祉協議会	行政・社協	○ボランティアに関する情報収集ならびに情報発信を強化する。 ○定年退職者等を対象としたボランティア養成講座を開催し、人材を発掘するとともに、組織化や活動の場づくりなどをすすめる、地域課題に応じたボランティアコーディネートができるしくみづくりをすすめる。 ○絵手紙・傾聴・読み聞かせボランティア養成講座修了者に対し、資質向上とグループの取り組みを支援する。 ○地域で活動される方々の情報交流や意見交換、つながりづくりの場としてサロン交流会を開催し、地域活動ならびに地域で活動されるボランティアを支援する。 ○地域でサロン等の立ち上げ時などの相談を随時受付し、地域活動が継続的に実施されるよう支援する。 ○栗東市いきいき活動ポイント制度の受託。	・栗東ふぁざーず倶楽部活動支援 ・傾聴ボランティア講座開催 講師 特定非営利活動法人おうち犯罪被害者支援センター理事・支援局長松村裕美氏（H29.3.14実施予定） ・地域でのサロン活動等を支えるボランティアが情報交換や、つながりを作る機会として「サロン交流会」を開催し、ボランティア活動の活性化への支援を行った（H28.9.26開催 ※29.3実施予定）。 また、新たにサロンを立ち上げたい地域や団体の相談を受け、サロン開設への支援を行った（2団体）。 ・栗東市いきいき活動ポイント制度の実施により、168名（H29.1未現在）が登録。 地域福祉の重要性、ボランティア活動について周知した。	・介護保険改正に伴う、地域住民相互の助け合い活動を見据えたボランティアの養成講座等を開催していく必要がある。 ・講座修了者への活動場所の確保とグループ結成後の支援、継続的な研修の実施。	ボランティア活動の啓発・支援	
	③ ボランティア養成講座等による人材育成及び資質向上	障がい福祉課	行政	聴覚障がいのある講師による手話講座の実施により、聴覚障がい者に対する理解を深めるとともに、手話による会話技術を習得することにより、地域や家庭等身近な場所での手話コミュニケーションの実践に生かす。		行政	昨年度の入門課程から基礎課程にレベルアップし、より実践的な手話を参加者が習得することができ、市内サークルへの加入や聴覚障がい者との交流が図れた。また、29回の開催のうち6回を講義形式として、聴覚障がい者への理解を深めることができた。	講座への参加により手話コミュニケーションができる市民の育成に努めていくとともに、講座修了後のサークル・ボランティア活動や、手話通訳養成講座への参加等へのステップアップにつなげていく必要があります。	手話講座 H25 年1クール H26 年1クール H27 年1クール H28 年1クール H29 年1クール	H25 年1クール H26 年1クール H27 年1クール H28 年1クール H29
			長寿福祉課	絵本の読み聞かせボランティア養成講座 認知症予防として効果が期待される絵本の読み聞かせが意欲的に継続でき、次世代交流として地域での役割創出「生きがいづくり」へとつなげます。また、人と人をつなげるソーシャルキャピタルの醸成を図ります。		行政	平成26年度に開催した養成講座後、「にこにこクラブ」として自治振興課のがんばる基金も取得され、主体的かつ精力的に活動されています。	平成27年度より栗東100歳大学を開校し、今後、ボランティア活動をはじめとする様々なコミュニティに関わる活動が誕生すること、また、活動ができるよう支援するなど活動および活動場所の調整と発掘が必要です。	講座終了後、ボランティア活動をする人数 H25 H26 20 H27 30 H28 27 H29 46	H25 17 H26 19 H27 27 H28 36 H29
		社会福祉協議会	社協	○絵手紙講座など人気がある活動をきっかけにボランティア活動に取り組んでいけるよう計画し、継続して活動ができるように組織化やボランティア活動の場づくりをすすめる、コーディネートを行う。 ○サロン交流会を開催し、地域で活動される方々が交流するなかで、地域課題を認識し、その解決にむけて意見交換できるよう情報提供するなど支援する。 ○レイカティア大学との連携強化。		社協	・傾聴ボランティア講座開催 講師 特定非営利活動法人おうち犯罪被害者支援センター理事・支援局長松村裕美氏（H29.3.14実施予定） ・地域活動の担い手となるレイカティア大学生を受入、地域課題に取り組めるよう情報提供や活動場所の提供に努めた。	開催した講座内容を活かせる場づくり、情報提供を確実に実施し、自発的にボランティア活動ができるような継続的支援、将来的には組織化支援も必要である。	ボランティア活動の啓発・支援	
		健康増進課	行政	栗東市健康推進員連絡協議会の活動支援としての現任研修会の実施		行政	地域の健康づくりのリーダーとして、健康や栄養に関する知識の普及に貢献することが出来た。	各自治会に健康推進員の推薦依頼を行います。働いている人も多く健康推進員の希望者が少なく、また、地域の中で健康推進員活動が広く浸透していない現状がある。	現任研修会の実施回数と参加人数 H25 2回（100人） H26 3回（176人） H27 2回（120人） H28 2回（120人） H29 2回（120人）	H25 2回（89人） H26 3回（224人） H27 2回（70人） H28 2回（103人） H29

基本目標	取り組みの方向	具体的な取り組み	内容	関係部署	実施主体	事業概要	成果	課題	目標とする指標・内容	実績	
		④ ボランティアに関する情報提供及び活動拠点の整備	ボランティア活動を地域ぐるみで展開するため、ボランティア活動に関する情報を発信します。また、ボランティア・市民活動支援センターの支援を行い、活動拠点を確保することで、個人的な活動を推進するとともに、各種関係団体とボランティア団体との連携等を行います。さらに、災害ボランティアセンターとしての機能強化を図ります。	自治振興課	協働	平成25年度よりボランティア市民活動センターが栗東市社会福祉協議会に統合された中で、社会福祉協議会の一部門として事業内容の充実や安定したセンター運営を図れるよう支援します。(補助金交付、情報提供など) また、市民社会貢献活動促進基金補助金助成(元気創造まちづくり事業)を行い、社会貢献活動を行う市民団体の自立に向けた支援を行います。	社会福祉協議会ボランティア市民活動センターへの運営支援を行い、市民活動団体の活動拠点の確立と活動の活性化を図りました。また、元気創造まちづくり事業助成により団体の活動支援を行い、ホームページなどで活動内容の紹介や情報提供を行いました。	社会福祉協議会と連携し、災害時の対応に備えた災害ボランティアの体制を整えていく必要があります。	ホラセン運営事業補助金の交付 団体活動助成金等の情報提供 市民社会貢献活動促進基金補助金助成 H25 実施 H26 実施 H27 実施 H28 実施 H29 実施	H25 実施 H26 実施 H27 実施 H28 実施 H29 実施	
				社会福祉協議会	行政・社協	○ボランティア活動に関する情報について、本会広報誌、ホームページ、ダイレクトメール等を通じて発信する。 ○各老人福祉センターを拠点として、掲示板等を活用してボランティア活動や災害時等の情報発信を行う。 ○市内における災害ボランティアの登録をすすめる。 ○災害ボランティアの研修会ならびに交流会を開催し、災害ボランティアセンターの機能強化を図る。 ○行政との連携を強化し、災害時の役割分担等を再確認し、災害ボランティアセンターの設置や災害時の災害ボランティアセンター機能の強化を図る。	・ボランティア市民活動センターのハード面での環境整備をおこない、活動や練習をしやすい環境を整えた。 ・行政と協議を重ねる中で、災害時の社協と災害ボランティアセンターの役割について確認を行うとともに、社協職員の災害に関する研修をおこない、意識高揚を図ることができた。 栗東市総合防災訓練にてHUG実施(H28.8.27)。下戸山にて「災害ボランティアセンターの現場から」講演会実施(H28.7.4実施)。	災害ボランティア登録者の研修、交流の機会を増やし、自主的に活動できるよう支援するとともに、行政とも平時から連携し、定期的な情報交換をおこなう必要がある。	行政との連携強化		
イ 住民主体の地域づくり機運の醸成	①	市民参画による健康づくり、個人の健康づくりを社会全体で支援する健康づくりの推進	市民が誘いあって運動し、健康づくりの仲間を増やしていく中で、普段からのつながりを福祉活動につなげます。	健康増進課	行政	栗東市健康増進計画「第2次健康りっとう21」のもと、健康づくりを推進する。	栗東市健康づくり推進協議会で、各関係機関で取り組みを確認するとともに、市民への健康啓発内容についての検討を行った。	第2次健康りっとう21計画の中間評価を行う中で、社会全体として個人の健康を支える環境づくりについて検討していく必要がある。	協議会の開催回数 H25 2回 H26 2回 H27 2回 H28 2回 H29 2回	H25 4回 H26 2回 H27 3回 H28 3回 H29	
			○地域サロン等で介護予防等につながる軽体操等の指導を行う。 ○地域でサロン等の立ち上げ時などの相談を随時受付し、地域活動が継続的に実施されるよう支援する。 ○体操やレクリエーションなどを地域で指導できるように、リーダーを対象に講座を実施する。 ○各老人福祉センターにて各種教室を開催し、健康づくりの場を提供する。 ○栗東市いきいき活動ポイント制度の受託。	・出前講座等で職員が出向き、地域のリーダー等を中心に健康づくりの実践方法(家でできる軽体操等)について指導し、健康増進に寄与することができた。 ・各老人福祉センターにおいて、健康に関するレクリエーションを実施し、健康と仲間づくりに寄与することができた。 ・介護予防を目的とする栗東市いきいき活動ポイント制度の実施により、168名(H29.1末現在)が登録。	閉じこもりがちな方に対しての支援方法等について検討する必要がある。	全市的な取り組みにする H25 H26 H27 H28 H29	H25 H26 H27 H28 H29				
	②	介護予防事業を通じた地域づくりの推進	身近な地域において自主的な介護予防活動が展開できるよう介護予防事業を効果的に行います。介護予防事業が地域の見守り活動にもつながるよう地域づくりの一環として取り組みます。	長寿福祉課	協働	いきいき百歳体操の普及、周知啓発活動・新規団体技術支援、継続実施団体支援 いきいき百歳体操の実践団体を増やし、筋力運動など介護予防の取り組みが継続でき、また、身近な地域づくりや見守りにつなげるよう支援します。	今年度も普及、周知啓発と新規団体の技術支援、継続実施団体の支援を行い、新規に立ち上がった5団体を含む69団体が実践をされています。運営者の中から「活動発展企画会」の参加者を募り10名が参画され、参加者や実践団体を増やすための企画を検討しています。身近な地域で実施することにより、高齢者が参加しやすく介護予防に継続的に取り組んでいます。また、地域づくりや見守りにも役立っています。	実践団体は、口コミや市からの啓発などで少しずつ増えているものの、実践できていない地域もあります。また、年数が経過すると参加者の高齢化も進み継続が困難となる可能性もあります。第7期高齢者福祉計画・介護保険計画策定で介護予防事業評価および今後の事業展開についてさらに推進していく必要があります。	実践する団体の数 H25 H26 58 H27 65 H28 62 H29 70	H25 51 H26 59 H27 64 H28 69 H29	
			生きがいデイサービス 介護予防に向けて健康体操、口腔体操、レクリエーション、自主活動等を行う。体験会の呼びかけ、施設のPRを行う。	ひだまりの家	行政	虚弱や閉じこもり高齢者の介護予防に取り組むことができた。また、デイサービス利用者が互いに声を掛け合い、相手を思いやるなどつながりを深めることができた。随時の体験・見学の受入れなどにより、体験者が増え、周知ができ、新規利用登録に結びついた。	体調等の変化により、生きがいデイサービスの利用から介護保険の利用へと移行する方が増えており、新たな利用者を増やす必要があります。民生委員児童委員および長寿福祉課との連携を深め、対象者への勧奨を行うとともに、体験会や見学会の開催、広報紙等を通じて事業内容の周知に努めています。	デイサービス利用者数 H25 H26 2,400人 H27 2,450人 H28 2,400人 H29 2,400人	H25 2,547人 H26 2,321人 H27 2,069人 H28 2,170人 H29		
	③	福祉の大切さを学ぶ	市民一人ひとりが、地域社会を構成する一員としての関心と意識を高めることができるよう、研修会や学習活動などの取り組みのほか、情報提供等を通して、ふれあい、支えあい、助けあいの心を育む福祉の啓発に努めます。	生涯学習課	行政	市民が地域社会を構成する一員としての関心と意識を高めることができるよう、研修会や学習活動などに取り組む支援	「環境・子育て・まちづくり」の三分野で講座を実施した。(各学区及び等が実施)	学区毎に取り組みに対する温度差がある。	研修会や学習活動などの取り組み支援と啓発 H25 実施 H26 実施 H27 実施 H28 実施 H29	H25 実施 H26 実施 H27 実施 H28 実施 H29	
			○社会福祉大会にて記念講演を開催し、福祉の啓発を図る(2月18日開催)。 ○市内小、中学校等へ車椅子体験や高齢者模擬体験など福祉教育の支援として出前講座を実施し、助け合いの心を育む福祉の啓発に努める。 ○老人福祉センターやデイサービスで、世代交流事業を実施する。	社会福祉協議会	行政・社協	○福祉大会において『「一人」が大切にされる地域であるために ～ともに在り、ともに生き、ともに支え合うつながりの築きへ』と題し、同志社大学社会学部社会福祉学科教授空閑浩人氏による講演。小地域福祉活動の重要・必要性について理解を深める(H29.2.18日開催)。 ・市内の小・中学校に積極的に出向き、福祉体験学習を実施することで、児童・生徒に対し、助け合いの心を育む啓発をおこなうことができた(6校)。 ・老人福祉センター等において幼児園児・学童保育所児童・児童館利用児童等と交流事業を実施し、世代間の交流ができた。	単発的な学習に終わることが多く、継続的な協力・支援が必要である。 一部の学校に留まらず、市内のより多くの小・中学校に啓発することが必要である。	福祉意識を高める H25 H26 H27 H28 H29	H25 H26 H27 H28 H29		

基本目標	取り組みの方向	具体的な取り組み	内容	関係部署	実施主体	事業概要	成果	課題	目標とする指標・内容	実績	
ウ	参加機会の拡大	① 誰もが参加できる仕組みづくり	地域サロン活動や健康教室などを通じ、子どもや高齢者、障がいのあるなしにかかわらず、市民一人ひとりが社会活動に参加でき、地域で生活するすべての人が生きがいを感じながら継続的に暮らし続けられる地域社会を目指します。	長寿福祉課	協働	老人クラブが主体となり、生きがいと健康づくり事業を開催し、高齢者の社会参加を進めます。	高齢者の生きがいと健康づくり推進会議(事務局は老人クラブ連合会)に委託している、高齢者の生きがいと健康づくり事業では、高齢者が自ら事業を企画・運営し、生きがいや健康づくり、交流を推進することができました。事業に多くの参加があり、また大会参加を励みに活動される方もおられ、生きがいと健康づくり活動を活発化させることにつながりました。また、参加者同士の交流の場としても大いに生かすことができました。	高齢者が自ら企画し運営する生きがいと健康づくりにつながる活動を支援していますが、更に、元気な高齢者が地域の担い手になるよう社会参加を促進することが必要です。	生きがい実践交流大会参加者数 H25 500 H26 500 H27 550 H28 500 H29	H25 500 H26 550 H27 400 H28 350 H29	
				自治振興課	行政	コミュニティセンターにおける地域住民の生きがいや交流の場の提供等に関する支援を行います。	年間を通じて、各コミュニティセンターにおいて貸し館による活動の場の提供を行なうとともに、コミセンだより等による情報提供を実施しました。	貸し館利用者にとって、より使いやすい利用施設としての場の提供や施設環境の整備を継続して行なっていく必要があります。	コミュニティセンター等貸館支援 H25 実施 H26 実施 H27 実施 H28 実施 H29 実施	H25 実施 H26 実施 H27 実施 H28 実施 H29 実施	
				社会福祉協議会	行政・社協	○地域で活動される方々の情報交流や意見交換、つながりづくりの場としてサロン交流会を開催し、地域活動ならびに地域で活動されるボランティアを支援する。 ○地域でサロン等立ち上げ時などの相談を随時受付し、地域活動が継続的に実施されるよう支援する。 ○「リフレッシュ健康教室」等を通じて健康づくりをすすめる中で、いつまでも住み続けたいと感じる地域づくりを推進する。	・地域のサロン等で活動される方々の交流、情報交換の場としてサロン交流会を開催し、今後の福祉活動につなげていける場を設ける(H28.9.26開催 ※29.3実施予定)。 ・新たにサロンを立ち上げたい地域や団体の相談を受け、サロン開設への支援を行った(2団体)。 ・大宝西学区における『リフレッシュ健康教室』(計8回)に健康運動指導士を派遣し、市民の健康づくりに寄与することができた。	サロン交流会がマンネリ化しないよう、企画を検討する必要があります。 『リフレッシュ健康教室』等の健康づくりについて、全市的に広めていく必要がある。	全市的な取り組みにする		
	② 健康づくりや社会参加の促進			サークル活動、ボランティア活動、生涯学習への参加を通じた「仲間づくり」「役割づくり」が重要であり、情報提供に努めます。特に、高齢者に情報を提供することにより、長年培った技能や趣味が生かせる活動を支援します。	長寿福祉課		絵本の読み聞かせボランティア養成講座 認知症予防として効果が期待される絵本の読み聞かせが意欲的に継続でき、次世代交流として地域での役割創出「生きがいづくり」へとつなげます。また、人と人をつなげるソーシャルキャピタルの醸成を図ります。	平成26年度に開催した養成講座後、「にこにこクラブ」として自治振興課のがんばる基金も取得され、主体的かつ精力的に活動されています。	今後、ボランティア活動をはじめとする様々なコミュニティに関わる活動が誕生すること、また、活動ができるよう支援するなど活動および活動場所の調整と発掘が必要です。	講座終了後、ボランティア活動をする人数 H25 17 H26 20 H27 30 H28 27 H29 46	H25 17 H26 19 H27 27 H28 36 H29
					長寿福祉課	協働	いきいき活動ポイント事業 高齢者等が介護支援に関わるボランティア活動を実施し、社会参加活動を通じて他者と高齢者等自身の介護予防の推進を図るとともに、地域住民主体の通いの場と互助の充実を推進します。	平成28年10月より事業を開始し、多数の活動登録者が、介護保険施設や地域高齢者サロン、いきいき百歳体操において介護支援に関わるボランティア活動を実施しています。	事業の目的を達成するために、活動者等の意見を参考に柔軟に制度改正を行っていくことが重要です。	ボランティア活動登録者数	H29 2月 168
					長寿福祉課	協働	栗東100歳大学 65～66歳の市民を対象とし、週1回40回(約1年間)、定員40名でカリキュラムを通じて社会事象など様々なことを学び、自らの健康や生きがいづくり、社会参加について参加者自らが考え、卒業後、活動継続できたり、新たな取り組みが実践できるように支援します。	第2期として、9月に第1回公開講座を開催し、10月より24名の大学生を迎え開校。 カリキュラムに応じた講師による座学、グループディスカッションや実技を交え、さらに質疑応答、活発な意見交換により深い学びとなっています。また、第1期生の卒業後の活動支援を行っています。	自らの健康や生きがいづくりの必要性について、その意識や実践意欲が高い大学生の活動をサポートするために様々な機関と協働するなど、支援方法にも創意工夫が必要でです。	大学卒業後、社会参加につながった人の割合 H25 H26 H27 H28 30 H29 30	H25 H26 H27 H28 16 H29
					生涯学習課	行政	高齢者に情報を提供することにより、長年培った技能や趣味が生かせる活動を支援する。	生涯学習人材バンクへの登録数 23団体 生涯学習活動団体の登録数 59団体 活動紹介	高齢者への情報提供手段	高齢者が長年培った技能や趣味が生かせる活動を支援する。 H25 人材バンク 30 活動団体 90 H26 人材バンク27 活動団体 79 H27 人材バンク 30 活動団体 90 H28 人材バンク 30 活動団体 90 H29	H25 人材バンク 37 活動団体 96 H26 人材バンク 21 活動団体79 H27 人材バンク 23 活動団体 65 H28 人材バンク 23 活動団体 59 H29
					社会福祉協議会	行政・社協	○絵手紙講座・傾聴・読み聞かせボランティア養成講座修了者に対し、ボランティアの育成とグループの発足に向けての取り組みを支援する。 ○各老人福祉センターにて各種教室を開催し、仲間づくりの場を提供する。 ○各老人福祉センターにて場所や情報を提供し、サークル活動を支援する。 ○各老人福祉センターにて民生委員、老人クラブ、地域サロンを対象に見学(体験)ツアーを実施する。	・ボランティア市民活動センターにおいて各種講座を開催し、ボランティアの育成をおこなった。 ・各老人福祉センターにおいて、講座やレクリエーションを実施し、高齢者の仲間づくりを支援することができた。 ・地域サロンで老人福祉センター見学(体験)ツアーに参加されたことがきっかけで、老人福祉センターの利用につながった。	ボランティア、老人福祉センターとともに、新規登録・利用者を募り、より多くの方に社会参加してもらえよう、啓発と工夫が必要である。	生きがいづくり・社会参加の促進を図る	

基本目標	取り組みの方向	具体的な取り組み	内容	関係部署	実施主体	事業概要	成果	課題	目標とする指標・内容	実績
		③ 高齢者・障がいのある人が自立した生活を継続できるような社会参加の場の拡充	高齢者や障がいのある人の社会参加促進のため、今後、利用者へのサービスの周知及び啓発、各事業所には質の高いサービス提供の啓発を行い、利用促進を図ります。	障がい福祉課	行政・就労支援機関	障がい者の自立生活支援のための就労に関する情報の提供や、働き・暮らし応援センター等の就労支援機関との連携による相談等の支援を行う。	就労に関する情報提供や就労支援（相談）により企業への就労につなげることができた。また、作業所での就労継続支援や就労移行支援から一般就労につなげることもできた。	障がい者の雇用の場を広げることと、それぞれの特性に合わせた就労支援により職場定着を図っていく必要がある。	一般就労移行者数 H25 16 H26 13 H27 15 H28 16 H29	H25 16 H26 14 H27 13 H28 12 H29
				長寿福祉課	行政	介護保険サービスの利用者が自立して社会参加ができるよう情報提供をします。	介護保険サービス利用者を含め高齢者が自立した生活を送れるように、広報や折込チラシなどで情報提供をおこないました。また、質の高いサービス提供が図れるように、介護支援専門員への研修や情報交換を行なった。事業所には「いきいき百歳体操」の啓発や虐待防止のための啓発も実施した。	高齢者が住みなれた地域で、いつまでもいきいきと自立して過ごせるためには、引き続き情報提供や関係者と情報共有していく必要があります。	広報等で情報提供 H25 4 H26 4 H27 7 H28 14 H29	H25 4 H26 4 H27 34 H28 61 H29
				社会福祉協議会	行政・協働	○各老人福祉センターや通所介護事業所、身体障がい者デイサービス事業所において啓発紙を作成するとともに、広報・ホームページ（ブログも含む）において事業内容等の紹介・啓発を実施する。 また、質の高いサービス提供のため、職員については内外部の研修に積極的に参加し資質向上を図る。 ○各老人福祉センターで巡回バスを運行するなど、利用しやすい環境を整備する。 ○各老人福祉センター利用者の声をサービスに反映させるため、利用者会議を開催する。 ○心身障がい児(者)レクリエーションスポーツ大会等の運営を支援する。 ○J-エクスベ事業を受託し、精神障がい者等の就労訓練を実施する。	・老人福祉センター、通所介護事業所、身体障がい者デイサービス事業所において、毎月たよりを発行し、事業紹介等の周知を行い、利用につなげることができた。 ・巡回バスの停留所、時刻表の見直しを行い、サービスの向上につながった。 ・老人福祉センター利用者会議の委員による評価（3月予定）を実施して、運営管理の課題解決を図る。 ・心身障がい児(者)レクリエーション・スポーツ大会の実行委員に参画(主体的・主導的な立場)し、運営に協力・支援をすることができた。 ・J-エクスベ事業を通じ、基礎的な就労の支援ができた。	・老人福祉センターの利用者の増加を図るため、ニーズの見極め、多様な行事設定。（関心の高い介護予防事業を、継続して実施する必要がある。） ・心身障がい児(者)レクリエーション・スポーツ大会を足がかりとして、市内の作業所や障がい者団体等が連携できる場を作る必要がある。	レクスボ等継続運営の支援 H25 H26 H27 H28 H29	H25 H26 H27 H28 H29
		④ 障がいのある人が地域活動に参加しやすい環境の整備	障がいのある人がスポーツやレクリエーション、その他さまざまな地域活動に参加しやすい環境づくりのために、コミュニケーション支援事業による手話通訳者や要約筆記者、ガイドヘルパー（移動支援事業）などの派遣を行い、参加機会の拡充を図ります。	障がい福祉課	行政	県が開催するスポーツ大会、市レクリエーションスポーツ大会等の周知・啓発、運営等の支援を行う。 視覚障がい者生活行動訓練事業により、障がい者の社会参加の機会及びガイドヘルプの実験の機会とする。	スポーツ大会・レクリエーション事業の周知や運営の支援、視覚障がい者生活行動訓練の実施等により、障がい者の社会参加（余暇支援）が図れた。	障がいのある人の生きがいのひとつとして、今後も安心して参加できるスポーツやレクリエーション活動が必要である。また、より多くのボランティアの参加が求められる。	レクリエーションスポーツ大会への参加者 H25 H26 370 H27 380 H28 580 H29	H25 380 H26 370 H27 581 H28 632 H29
				社会福祉協議会	行政・社協	○視覚障がい者の外出機会や社会参加促進のため、同行援護事業（ガイドヘルパーの派遣）を実施する。 ○ボランティアによる要約筆記者等のコーディネートを実施する。	・同行援護事業（ガイドヘルパーの派遣）および市主催の生活行動訓練事業に参加して、視覚障がい者の外出機会や社会参加の促進とともに、ガイドヘルパーの技術向上が図れた。 ・社会福祉大会において手話通訳を依頼し、障がいのある方の参加に配慮することができた。	要約筆記者ボランティアの活動について、啓発・情報提供を行う必要がある。	社会参加の機会の拡充を図る	